

淡水魚—テラピア類—

夏休みも終りに近づいたある日、一人の高校生が富山市の運河で釣られた見なれぬ魚を持ち込んできました。体長約30cmのクロダイに似た魚で、富山県の川では初めてみつかったアフリカ原産の熱帯魚チカダイ（テラピアの仲間）でした（表）。運河の上流の工場で温排水を利用して養殖しているとのことですから、ここから逃げ出したのでしょう。テラピアの仲間は日本には10種以上移入されていますが、野生化しているのはチカダイやカワスズメなど2～3種です。

アフリカのサハラより南に分布するテラピアの仲間は、観賞魚で有名なエンゼルフィッシュなどともにカワスズメ科の淡水魚です。原産地では重要な食用魚で、成長が早く、飼いやすいことなどにより世界各地で養殖されています。

表. 富山県の川で記録された外国産の淡水魚

原産地	名 前
北アメリカ	ニジマス・ブラックバス・ソコナマス
中 国	タイリクバラタナゴ・ライギョ・ソウギョ・ハクレン
アフリカ	チカダイ

日本ではチカダイやカワスズメが各地の温泉地で繁殖され、沖縄県や温泉水の入りこむ川や水田で野生化しています。水温が高いと年中産卵する繁殖力の強い魚です。河底にすりばち状の産卵床をオスが造り、メスを誘います。産まれた卵はすぐ母親の口の中に保護され、口の中でふかした幼魚は母親の近くで泳いでいますが、危険がせまると親の口の中に逃げ込みます(図)。

見つかったところは、サヨリやヒイラギといった海の魚も見られる海水のまじる所でした。餌は運河の岸や停泊^{ていぱく}している漁船につく藻や流れてくる水草を食べているようです。近くの用水にはえている藻で釣れたのには驚きました。雑食性ですから用水から流れてくる残飯も食べているのかもしれませんが。

熱帯の魚なので寒さに弱く、水温が10℃以下では死亡します。運河で冬を越せるかどうかは分かりませんが、温排水の流れ出る水温の比較的高い川底で着が来るのをじっとまっているのでしょう。
(南部 久男)

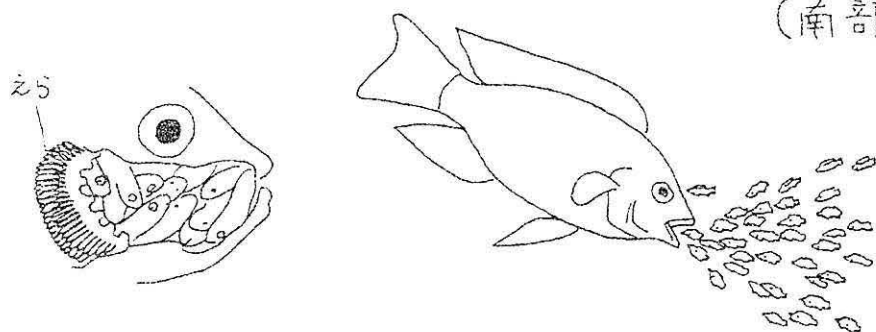


図. 口の中に入った幼魚(左、えらびたを取り除いた図)と入ろうとする幼魚(右) —保育社の淡水魚類図鑑より模写—



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和62年/0月/日 発行